

平成 25 年度 第 2 回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

< 日 時 > 平成 26 年 3 月 29 日 (土) 14:00 ~ 17:00

< 場 所 > 宇治市生涯学習センター第 2 ホール

< 出席者 > (委員 : 19 人出席 / 23 人中)

安藤会長、松井 (敏) 副会長、青山委員、大西委員、岡本委員、竹下委員、竹田委員、橘委員、松村委員、山室委員、片岡委員、岸委員、塚本委員、藤森委員、弓指委員、迫委員、松井 (明) 委員、浅妻委員、能塚委員

(事務局 : 14 人)

教育部 中谷教育部長、村田教育部次長兼教育総務課長、
山下教育改革推進室長兼教育指導課長、
富治林小中一貫教育課長、

健康福祉部 佐藤健康福祉部長、斉藤健康福祉部理事、
遠坂子育て支援室長兼こども福祉課長、高田保健推進課長、
金久保育課長、古川こども福祉課主幹、
山本こども福祉課主幹、北尾こども福祉課主幹、
三品こども福祉課子育て企画係長、
平山こども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 9 人

< 会議内容 >

1 開会

【会 長】定刻になりましたので会議を開会します。なお、本日の会議は「宇治市子ども・子育て会議の公開に関する要項」に基づいて公開としています。

- ・事務局より、会議の成立確認と配布資料の確認。

2 議事

(1) 「宇治市児童育成計画・次世代育成支援対策行動計画」の進捗状況等について
宇治市児童育成計画の進捗状況について

- ・事務局より、資料 1、2 に基づき説明が行われた。

宇治市次世代育成支援対策行動計画における特定 12 事業に関する目標事業量の実施状況について

- ・事務局より、資料 3 に基づき説明が行われた。

【委 員】これらは、市内部での評価ですね。これから新しい計画を策定していくのであれば、第三者委員会を立ち上げて、第三者がみていく必要があるのではないのでしょうか。いくつか気にな

るところがあります。例えば、19 ページに「親同士が交流できる機会づくり」という項目があり、「子育てサークルのネットワーク化」があります。交流会を開催したこと等が、評価となっていますが、近年、サークルの数は激減しています。その部分には触れられておらず、交流会を行ったということで評価がされています。やっているか、いないかと言えば、やっているかもしれませんが、サークルの育成がうまくいっているかどうかは別だと思えます。これからは、評価が順調でなくても、どうすれば良くなっていくのかを検討できるような計画にしていきたいと思えます。

【事務局】現在の「次世代育成支援対策行動計画」の評価は、これまで、行政内部での「順調」「順調でない」の判断を、「宇治市児童育成計画推進協議会」に確認をお願いしてきました。協議会で厳しい意見をいただくこともありました。子ども・子育て会議においても、「次世代育成支援対策行動計画」の各施策の状況について進行管理を行っていただく予定です。

【委員】この評価内容には、それぞれ担当課の記載がありますが、それぞれの担当課が評価したということですか。

【事務局】毎年度、各担当課が評価を行い、事務局で取りまとめたものとなっています。

【委員】全体を把握せずに申し上げますが、無難という気がします。圧倒的に「順調である」「順調であるが課題がある」の評価が多くなっています。第三者評価の意見もありましたが、やり方を変えることによって、大きく変動するようなことがないのかと思います。その点はいかがでしょう。

【事務局】これまで、行政内部で評価を行ってきましたが、このような形で「宇治市児童育成計画推進協議会」に報告し、行政とは違う視点で評価をいただけてきました。変わるところもあるかと思いますが、今後はこういったご意見も取り入れながら、計画を策定していきたいと考えています。

【委員】例えば、回答率が低いにもかかわらず、その中から全体を評価していくということになる懸念はないのかという気がします。積極的にやっている部分から評価をしていけば、無難な評価が出てくるのではないのでしょうか。ちゃんとやっているのはわかっていますが、そのようなことが無いということ、正当な評価であるということであれば、良いと思えます。

【事務局】担当課から提出を求める際は、具体的な調書で取るようにしています。それに基づき、担当課によって、評価が厳しかったり、そうでなかったりしないように、どこを評価指標の基準にするかを、関係課が集まって調整をしています。担当課としては、順調ではないものについて課題は把握しておりますので、次年度に向けての取り組みは、関係課に年度当初に伝えております。役所内部の評価となっていますが、検証は行っているところです。

【委員】「順調だが課題がある」という評価がありますが、「順調」が多いのか、「課題」が多いのか

によって、変わって来ると思います。何が課題なのかが表を見ても見えてこないです。もう少し細かくしたものの資料提供はないのでしょうか。

【事務局】平成 23 年度までの報告書は、A3 用紙で、内容を細かく記載しておりましたが、少し細かすぎるというご意見もありましたので、今回変更しております。

【委員】平成 24 年度または 25 年度から、新しい取り組みはなかったのでしょうか。ずっと継続で行ってきたものばかりだったのでしょうか。

【事務局】214 という施策の項目数は変わりません。「順調だが課題がある」から「順調である」に進んだもの、「順調でない」から「順調だが課題がある」に移行したものの施策については、市として拡充しているものはあります。

【委員】12 ページの「休日保育事業の実施」において、24、25 年度とも、評価は「順調でない」となっていますが、主な成果・課題等には、ニーズを踏まえ検討となっています。それまではニーズが無かったので、実施しなかったのでしょうか。

【事務局】現在の計画を策定する際もニーズがあったので、1 か所の計画を立てましたが、なかなか実施できていないということです。

【委員】その原因はなにかあるのでしょうか。

【事務局】どこで実施していくかという課題等もあり、実施には至りませんでした。

【委員】214 項目をまとめるのは大変だと思いますが、個々の項目についての評価は、これまでされてきており、改善の必要のあったものもあったかと思います。これだけ項目が分かってくると、項目間の関係がどうなっているのかが気になります。例えば、ある項目に力を入れたがゆえに、こちらには力が入らなかった。この項目を実現するためには、こちらの項目も重要になる。そういった項目間の関係なり、行政内部で新たなニーズが発見されるなどが出てくると、より立体的な運営につながってくると思います。そういったニーズについての取りまとめを、私たちも担っていけたらと思います。提供いただける資料や議論はあるのでしょうか。

【事務局】次年度に向けては、何故実行できないのか、どのような課題があるのかを、関係課が集まって会議を開催しています。その中で、担当課長や担当者が話をして、次年度に向けて新たに指標を立ち上げるものについては立ち上げて、施策の実施まで至らなくても、少なくとも啓発だけでも行っていこうというものについては、その取り組みを進めるなど、担当として行っています。公開に至る資料とまでは至っておりませんが、作業としては行っているところです。

【委員】これからの宇治市の子育てを考えると、個別の目標をいかに達成するだけでなく、子育てのあり方や制度を、工夫しながらどう改善していくかが大きな問題だと思います。現場で話し合いながら調整をして、そこから出てきたものが、今後のヒントにもなると思います。こういう形で、各課で話し合っ、こういう形で解決が見られたといった例を簡単に示してもらえると、これだけやっているのだということがわかりますし、今後のヒントにもなり、また全体像が見えにくいことも改善されるのではと思います。あとは全体の把握をする中で、目標を立てた時に、ここには何%、そういった形で、人員や予算がどのくらい配置されているか、そこから見直していくべきではないかと思います。

【事務局】市の事業や政策を、人員とコストをかけてやってどれだけ効果があったのかという政策評価と、この計画の進行管理の評価をうまくリンクできないことは課題と考えています。市の総合計画との関連も含め、今後検討していきたいと思います。

【委員】目標ごとにまとめた表以外に、各課の仕事が簡単に図式化されたものがあれば、こことここがリンクしたほうがいいのでは、という考えも出来ると思います。そういう資料も今後何らかの形で示してもらえればと思います。

【委員】取り組みの評価が出ていましたが、障害児のこと、障害児を抱えている家庭への子育てに関することが無かったと思います。1項目だけ、「障害児保育事業の充実」というもので評価が出ています。これが実際に「順調にある」という評価が、私自身はどうかと思います。また、ニーズ調査をされた中にも、宇治市の子育て支援ということで行っていくのであれば、障害児がいますかという項目もあっても良かったのではと思います。障害児の子育て支援は、サービスが充実していると行政は言っていますが、それぞれの事業の中身が本当に充実しているのかということ、アンケートの中に盛り込んでもらいたかったと思います。障害児のいる親がどのように子育てをして、どこに困っているのか、障害児が放課後どう過ごしているか、日中どう過ごしているのかを知っていただきたい。健常児のことが多く、障害児が外されていると思います。地域の中で育てていない障害児が多いです。保育園にも通園できていない子どももたくさんいます。皆さん保育園や幼稚園と、療育施設との平行通園を行っています。障害児を保育所に預けるのは、ハードルが高いです。一般のお母さんとは働く時間も違いますし、なにかあればすぐに飛んで帰らなければいけないし、正規で働くこともできません。断られることも多いので、このあたりも検討して欲しいと思います。

【事務局】障害児保育の項目で、「順調である」と評価していますが、保育所では障害児の受け入れを公立でも民間でも進めています。また、12ページの一冊下の育成学級の指導員の資質向上の項目で「順調だが課題がある」としており、研修の方法やテーマ等の改善に向けた検討が必要となっていますが、障害児の受け入れについての配慮などの研修を現場の指導員からも求められていますし、私たちも工夫して年に何回か実施しています。育成学級でも要支援児童の受け入れは実施していますが、まだまだ課題があると考えています。ニーズ調査項目につ

いては、国と府のモデル調査票で実施していることもあり、個別のものは入れられませんが、今後も相談をさせていただきたいと考えています。また、保育所・幼稚園・小学校において、宇治市の子育て支援として要支援児童にどのように配慮していかないといけないのかも、年齢によって違うと思いますので、ご意見をいただければと思います。

【委員】育成学級は、4年生までの子どもの中に障害のある子どもも入っており、どのように携わったらいいのかということで、指導員が困られるということもありましたが、1年生で地域の小学校の支援学級に入る親が、地域の小学校か支援学校かに迷った時に、大変だからといって地域の小学校では受け入れられませんかと言われたことがあり、支援学校に行かざるを得ないので、支援学校を選んでいきます。でも、地域の学校に入った子どもの親が、地域の学校に通わせるからには、放課後は育成学級に行かせたいといっています。地域で育つことは大きいです。また、より身近で障害者と関わることは、健常児にも大きなメリットがあると思います。しっかりと指導員に障害者に対する指導は必要だと思いますし、せっかく地域の小学校に通っているのに、地域の福祉サービスを使って、放課後児童デイに行かなくてはいけないのは、なぜなのかと、私はおかしいと思います。扱いやすい場所に子どもを預けるということは、違うのではないかと思います。そのあたり、研修も増やしてもらい、地域で障害児が育っていくことができることを望みます。

【事務局】小学校1年生に進む時に、就学相談の中で様々な相談やアドバイスがあるとは思いますが、育成学級については、基本的に申込があれば、受け入れを行っています。4月に1年生を迎える場合は、新たに支援を要する子どもがどのような様子なのかを保護者から聞いた内容を、各学級に行政から伝えて、十分とは言えませんが、現場と準備をしています。特性を持った子どもに対応できるように、研修や施設整備をして欲しいという要望が、現場の指導員からもあります。

【委員】表の中の、育成学級の指導員の資質向上について、この項目以外のものは、この場所での議論はないのでしょうか。新たな項目も入れていけばいいのでは、という話をしてもいいのでしょうか。資質の向上は重要であると思いますが、自分の印象として、育成の子どもたちが増えて、多様性が出てきた時に、いくら資質を上げても、キャパがこえてしまうことが少なからずあると思います。そういうときに、どのような対応をするのか、何らかの手当をしていかないと、子どもに何らかの問題が生じます。育成学級で問題が起きたときに、どのように手当をしていくのか、指導員の資質向上の項目だけでなく、別のやり方を探っていく必要があると思います。それと、真ん中の、社会福祉法人等の参画、民間が育成事業に携わるといったことも、より充実していくべきだと思います。「順調であるが課題がある」ということですが、その内容はどのようなのでしょうか。

【事務局】12ページの「育成学校の内容の充実」の項目で、社会福祉法人等の参画については、いくつかの民間保育園で実施されていますが、独自に運営されているのが現状です。育成学級は、全国で様々な運営が行われていますので、全国的な統一ができていないのですが、子ども・

子育て支援新制度においては、育成学級についての運営については、市町村が基準を条例で定めることとなっています。これまで宇治市は宇治市独自のルールでやってきて、小学校の中で育成学級を運営していますが、今後どのように運営をしていくのか、ニーズの高まりの中で、従来の学校施設の中で対応ができなくなる可能性もあります。対象学年も6年生までとなりましたので、5、6年生の受け入れをどのように行っていくかも、今後検討していく予定となっています。宇治市の育成学級をどのように取り組んでいくかを、この会議で意見をいただきながら、決めていく予定となっています。

【委員】今年度の事業を見直して、次年度に行くということですが、私は、乳幼児の親が集まる場をつくっています。在宅で子育てを行っていて、そこへのお金や支援が少ないことが実態としてあります。学校の不登校などの心のケアについて、「順調ではあるが課題がある」という評価となっていました。今後の計画を立てていくときに、18歳までについては、ヒアリングやニーズ調査が行われていませんし、触れられていません。やっていることに対する評価はありますが、載っていないことがたくさんあり、宇治市に必要なものはもっとあるのではないかと思います。このようなことを話し合っていく場でもあると思いますし、いろいろな立場の方が集まっているということは、その立場でしかわからないことがあると思いますので、立場で思っていることを出し合って、でも、宇治市全体を見たときに、知らないところもたくさんあると思います。0歳から18歳の子どもが幸せになれるための会議であると思います。皆さんの立場で意見を出し合っていくことが大事であると思いますし、宇治市にできている、できていないということを指摘しているのではなく、できていないものを明確にしたほうが、やらないといけないことが明確になるのではないかと思います。

【委員】「順調である」「順調であるが課題がある」という評価の数値が多くなっていますが、この成果、例えば学力と結びつけることは乱暴ですが、やんちゃな子どもが随分減ってきたなど、教育の場で、大きく成長して、義務教育終了までの学校生活が安定してきたというデータがありましたらいただければと思います。

【事務局】今回の評価につきましては、子育ての中で、どのような施策があって、市民に戻せているかが評価されている内容となっています。子ども一人ひとりの行動や学力に、施策がダイレクトに来るものではないのではないかと考えています。学校教育という教育の内容でもって、学力や生活を育てるといった分野で取り組んでいく内容ではないかと思っています。実際の子どもの行動はどうかという数値的なものは、文部科学省で19項目が定められています。いじめも入っていますが、いずれもピーク時から減少していますが、年度によって差はあります。5年のスパンでは波があるので、評価は難しいと思います。

【委員】私立幼稚園は、3、4、5歳を学校教育体系の中で教育を行っています。様々なサービスの事業の報告もありましたが、主に保育所のサービスが中心にまとめられています。ニーズ調査についても、幼稚園に子どもを預けている親からすると、私たち働いていない保護者は、答えなければいけないのか、という印象が強かったと聞いています。自分で家庭で子育てをし

たい、積極的に子育てをしたいと考えている保護者が、どこに行くのかという印象を強く持ったと聞いています。また、ニーズ調査票を細かく見ても、報告書を見ても、幼稚園のお母さん、幼稚園に通っている子どもたちの姿がどこに表れているのか、疑問としてあります。本日の資料の担当課をみても、幼稚園は学校に属しているので、教育委員会との連携の中で、教育業務を進めていくとなっていますが、残念ながら私立の場合は、府に所属しています。直接宇治市の教育委員会との関わりが今のところ無い状態です。宇治市の子どもを育てると言っているにも関わらず、私立幼稚園との連携がない中で、宇治市の園児の3歳から5歳の人口で言うと保育園の園児数と同じくらいの子どもが幼稚園を利用しています。例えば、学校教育課に関わる項目の評価についても、宇治の市立幼稚園との連携だけであるということをご皆さんに知ってもらいたいし、27年度以降の計画の中で、宇治市の子ども全体を考えていくのであれば、宇治市内の私立幼稚園の子ども、保護者も視野に入れて検討していただきたいと思います。この会議では、子ども・子育て支援法をもとに議論されていくと思いますが、第7条ですべての子どもの健やかな成長のために適正な環境が等しく確保されること、と書かれています。すべての子どもであるということを念頭に置いて、今後の検討の中では大切にしていきたいです。また、子育ての第一義的な責任は家庭にあるということをお大前提に、検討されていけば良いと思います。それぞれの立場で、等しく子どもの幸せをどうしていけばいいかという視点を、それぞれの立場で持って、意見を出し合って、宇治市の子どもの健全な育成のために、できることを話し合っていけるよう、会議が進むことを願っています。

【事務局】現行法制上は、私立幼稚園は府の管轄となりますので、宇治市と私立幼稚園は、直接関係が無いこととなりますが、そこに通っている子どもたちの就園助成費は、宇治市で予算を立てて、子どもや保護者に支給しています。私立幼稚園は方針を持っておられるので、市として意見を言うことはできませんので、それぞれの協議会や幼稚園に対して助成をしていますが、今後は、我々としなくても、法の動向を見守りながら、私立幼稚園との関係を強化していかなければならないと思っています。

【会長】今後の法制度がどうなっていくかも、視野に入れていかなければならないと思います。

(2) 宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査について

・事務局より、資料4に基づき説明が行われた。

【委員】育成学級で小学校6年生までの利用希望がありましたが、個人的な意見として、家に1人で過ごさせておくより、習い事などに行かせたほうが、大人の目もあるということが言えると思います。また、小学校6年生まで、経済的に不安がある人が多かったので、低い価格で受けられる制度や支援があればいいと思いました。あと、意見ではなく、報告になります。2月の中旬に、京都府の参加型セミナー「子ども・子育て支援新制度を知る」に参加してきましたが、いろんな意見があり、多かったのは新制度がよくわからないという意見でした。それをどうしていけばいいの意見交換をしましたが、その中で参考になったのが、子どもが笑顔になることが一番であり、そのためには親が笑顔になることが一番であるということ

でした。親が笑顔であるためには、仕事で残業などをしなければならない時に、社会的な支援の在り方も考えなければいけないということもおっしゃっていました。これだけのアンケート集計も大変だったと思うのですが、就学前、就学児童以外にも、子育て支援として、18歳までを支援していくことが制度であるので、自宅で子どもをみている親がどのようなことを求めているのか、中学校ではどのような問題があるのかが見えてくればいいと思います。見えないところが多いので、そこを知りたいです。今後、アンケートを行うことがあったら、自宅で見ている方などへも実施していただきたいと思います。

【事務局】前回会議で調査結果の速報をお配りした際は、単純な数値しかお示しできていませんでした。委員から、いろんな状況によって違うので、いかに分析をすべきかということで、クロス集計をまとめました。しっかり分析すべき点については、今後も行っていきます。

【委員】前回会議では、3月末に報告書を出してもらう予定と聞いていましたが、遅れている理由は何ですか。

【事務局】前回には、3月には報告書を取りまとめていくという説明をしておりましたが、その後、いろんな切り口でクロス集計を行ったこともあり、最終の取りまとめが遅れています。

【委員】ニーズ調査結果を読むのは難しいと思います。育成学級は、親の立場では6年生まで預かってもらうと安心ですが、本当は、育成学級に入れなくても、地域が安心だったら、家に帰って、地域で見守って自由に過ごさせてあげたいと思いました。ただ、実際に家に帰らせると、いろんな問題が起こって、仕事を辞めざるを得なかったという現実があります。本来こうありたいというもの、実際はそうではないので、育成学級に入れておきたいという気持ちもあると思います。ただ、子どもにとって6年まで育成学級に入って、自由にならないことはどうなのかとも思います。子育てひろばでは、外に出てきている親は良い、家に引きこもっているよりは良いと聞きますが、運営している側からみると、毎日ひろばに来ているから安全ということでもありません。どういう子育て、子育てにしたいのかがあって、理想と現実があり、こういうまちにしていきたいなど、その辺の一つの事業をどうするか、目標数値としてどうするかではなく、理想を共有して、テーマ別に分科会をもって自主的に計画を作っていくなど、何度も話し合いを積み重ねていかないと、本当に求められているニーズにはつながっていかないのではと思います。クロス集計からわかったことは、1歳までの赤ちゃんを育てている親が、発達のことに関心を持っている割合が高かったです。年齢別のクロス集計したことで見えた部分だと思います。育児の方法を丁寧に行うことは、個別なものであっても、本当に赤ちゃんをあやすなどの基本的な育児の方法を教えているところはないので、丁寧に行っていくことで育児不安の低減にもつながっていくのではないかと思います。

【委員】今回のニーズ調査に回答されている方のうち、96%は母親が回答しています。子どもの病気や発育を不安に感じられる割合が上がるのは当然だと思います。母親が答えていることを前提に考えた時に、フルタイムの人は少ないが、短時間のアルバイトやパートをしている人が

多いと思います。その中で、子どもと接する時間が少ないと回答されている人が多かったですが、仕事があろうと無かろうと、子どもと接する時間が少なくなっている傾向があります。母親は仕事をしていないと、子どもと接しているということではありません。実際は、子どもが目の前にいてもスマホをしている親もいます。経済的負担の軽減を求める意見がありますが、宇治市は充実していると感じていますし、母親が答えていることを考えてみると、自ら子育てをやっている人のために支援がある、自らやっているができないことを支えるのが支援だと思います。何よりもまず自分の力でやるということがなければ、いくら支援をしても足りません。このアンケートは母親が答えているということがありますので、育児状況からみると、子どもと接していない、自分から接しないという現状もあると思います。

【委員】ニーズという言葉について、国と同じベースで調査をされていますが、表に現れてくるニーズと、なかなか出てこない潜在的なニーズがあると思います。この潜在的ニーズをどのように探っていくのか。それは、参加型のセミナー、ワークショップで、成功例を日本に限らず、海外でもいいと思いますが、福祉施策での成功例の話を経験した方などに伺っていく中で、潜在ニーズが語られるのではないかと思います。潜在ニーズをどこまで拾い上げるのかも難しいと思いますが、そういうやり方もあるのではと思います。

【会長】大変活発なご意見をいただき、ありがとうございました。最後にありました、潜在、顕在ニーズに加え、主観的ニーズ、客観的ニーズも大切だと思います。ニーズ調査が基盤になり重要だと思います。本日の会議の前半にありました、現行計画の進捗状況についても、関連していると思います。限界はあると思いますが、計画に反映されればと思います。

(3) 平成26年度の取り組み予定について

・事務局より、資料5に基づき説明が行われた。(質疑なし)

【会長】議事については以上です。今日は委員から活発なご意見が出されました。これを事務局として参考にさせていただきたいと思います。

3 その他

【事務局】配付資料の補足説明をさせていただきます。内閣府の子ども・子育て支援新制度のホームページがリニューアルされ、また、パンフレットが新しくできています。カラーのものがまだ届いていませんので、モノクロのものを配付させていただきました。国もこうしたリーフレット等を作って、新制度をわかりやすく示そうと考えているようです。もうひとつの資料につきましては、「ベビーシッターなどを利用するときの留意点」についてです。先日埼玉県で、ベビーシッターを名乗るサービスの利用中に、子どもが亡くなる事件がありました。これについて、厚生労働省が、子ども預ける時にはこのようなことに気をつけましょうというお知らせをして、注意をさせていただこうということで、国から留意点が示されておりますので配付しております。補足説明は以上です。

4 閉会